

薄磯地区防災緑地ワークショップ

かわらばん 第4号



平成25年7月27日(土)に、修徳院にて「第4回 薄磯地区防災緑地ワークショップ」が開催されました。前回に行われた7月6日(土)の第3回ワークショップでは、「防災緑地のイメージを考えよう」と題して、平面図や植栽のことを中心に意見交換を行い、さらに後世への伝承方法や運営・管理についても検討しました。

最終回となる今回は「防災緑地の最終イメージを確認しよう」と題して、まちづくりに関する様々な課題やこれまでのワークショップでの検討結果についての確認を行うとともに、整備後の防災緑地の活用や管理について、意見交換を行いました。東北芸術工科大学の廣瀬先生からも「生物多様性から植栽を考える」と題し、防災緑地植栽を検討する上で話題提供をいただきました。当日は27名の地域の皆さまに参加していただき、活発な意見交換を行なうことができました。今回もかわらばんにて、その様子をお伝えします。

当日の流れ

①本日の説明



いわき建設事務所および薄磯区の区長より開会のあいさつがあり、その後、各事業（避難路計画、防潮堤の階段・スロープ、居住地側の雨水排水計画、道路計画）についての説明や質疑応答がありました。

②前回までの意見に対する方針の説明



これまで3回のワークショップの意見集約表と方針についての説明、およびワークショップでの平面図の最終案について説明がありました。

③廣瀬先生による講話



東北芸術工科大学大学院の廣瀬俊介准教授より、「生物多様性から植栽を考える」と題し、防災緑地における防災機能と地区コミュニティを尊重しつつ、植栽計画においては、地域固有の種を守り育てていくことの大切さと両立について講話をいただきました。

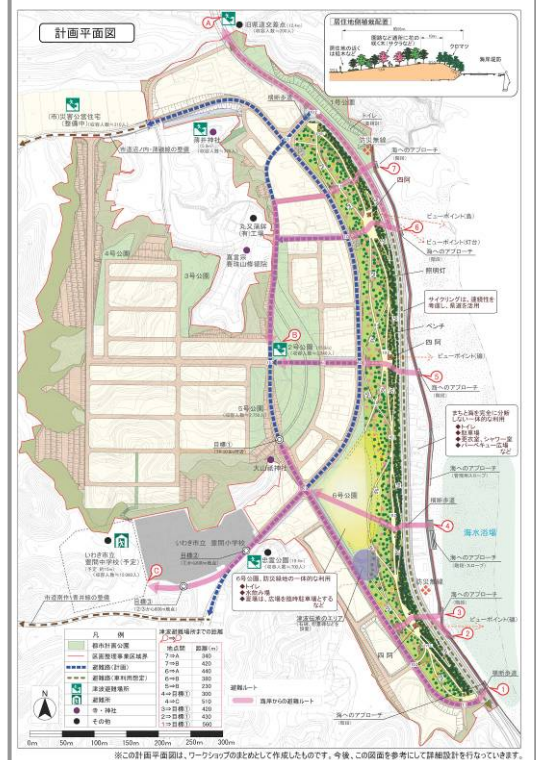
④意見交換と全体発表



本日の進め方についての確認の後、今回提示された最終計画案をふまえ、住民の防災緑地への関わり方や整備後の活用と管理の年間計画の検討、さらには地域の今後の課題などについて、意見交換を行いました。意見交換後はグループで代表者が発表を行い、グループで話し合った内容について皆さまと共有を図りました。

全体発表後は、東北芸術工科大学の廣瀬先生の総評や参加者から多くの意見をいただき、今回のワークショップを終えることができました。

第4回ワークショップで提示した計画平面





Aグループの主な意見

【管理等の基本は地元住民だがNPO等のベースも必要】
ボランティアに頼るのではなく地元住民が主体となるべき／薄磯地区に住人が戻ってくることが前提／NPO等の基盤づくり

【小中学校による防災緑地等への活動】 地元での管理は無理～小中学生による清掃活動やクリーン活動／中学校で授業の一環として参加／親子や家庭単位での参加／ボランティアをどうまとめるかが課題。

【付加価値や文化財などの魅力づくり・テーマづくりが必要】
魅力がないと観光客も定住者もいなくなる／薄磯地区にある穴倉（縄文時代からの文化財）の活用／「文化村」など付加価値が必要／地区内に全天候型の体づくりの施設があるとよい

【持続可能な活動と組織が必要】 持続可能な活動と組織／組織を作るためのお金、組織のマネジメント／観光収入を資金にNPO組織の構築

【その他】 植栽：花見ができる桜（品種限定～耐潮性等）



Bグループの主な意見

【前提】 防災緑地はあくまで防災であり、まずは津波の再来にどう命を守るかが重要／早く防災緑地を完成させて欲しい／緑地の活用を考える時期はもう少し後の方がよいのでは

【防災訓練について】 訓練をしていない海水浴客が避難場所にいけるかどうか疑問

【管理について】 管理については今後時間をかけて考えていくが、今は時期尚早／地元での管理の手が全然足りない／範囲が広く地元だけで管理は大変であるが協力は必要と考えている／地域で植ええや挿し木

【その他】 海岸堤防部は全てスロープが必要／小学校の屋上につながる階段を校舎の外側に設置／避難計画の想定について疑問（車の放置）／車で逃げるルート確保～内陸に向かう道路の整備



Cグループの主な意見

【行政への確認事項】 イベントは6号公園等周辺の公園を利用することが前提と思われる／防災緑地の居住地側で地元が利用できる範囲や内容について整理が必要／施設の管理者は誰か（トイレ管理、清掃、掃除等）地元だけでは難しい

【イベント実施の懸念】 区画整理事業が終わらないと人がかえって来ないのではないかと／イベントは防災緑地が出来上がってから考えてもよい／区画整理後の地区で生活していったこそ必要なイベントが見えてくる。

【イベントについて】 実施したいイベント（植樹祭や防災訓練、慰霊祭）慰霊祭、植樹祭／さくら基金の活用／薄磯区の住民全員が参加できるようなイベント／ハマナスプロジェクト

【清掃について】 地域の清掃デーとは別に実施／県が音頭を取るべき／地区外からのボランティアが必要。



今後の課題

- ◆薄磯地区から外へでた人を呼び戻すためには、安全・安心の確保や魅力づくりが重要である。予算面等の問題もあるが、中央台へむけての道路整備等、引き続き取り組んでいくことが重要である。
- ◆防災計画の作成にあたっては、さらに市民へのモニタリングや検証を行い、実体験にもとづいた計画を作成していく必要がある。
- ◆ワークショップの成果や、その中ででた意見が実現していくよう、関係者一同の協力が必要である。

【事務局より】

皆さま、お疲れさまでした。
4回にわたり活発な意見交換ができて
とても有意義なワークショップとなりました。ありがとうございます！



【お問い合わせ先】

福島県いわき建設事務所
担当：兵藤、緑川
電話番号：0246-35-6075

